

### 第3章 2019年透析導入患者の動態

#### 1. 臨床背景

2019年の患者調査票において、年齢と性別の記載が確認された導入患者数は38,556人であった。男性は26,731人、女性は11,825人で、導入患者の平均年齢は全体が70.42歳、男性が69.68歳、女性が72.11歳であった（図14、補足表14）。導入患者の平均年齢も慢性透析患者と同様、年々上昇している（図15、補足表15）。最も割合が高い年齢層は、男性が70～74歳で、女性は75～79歳であった。

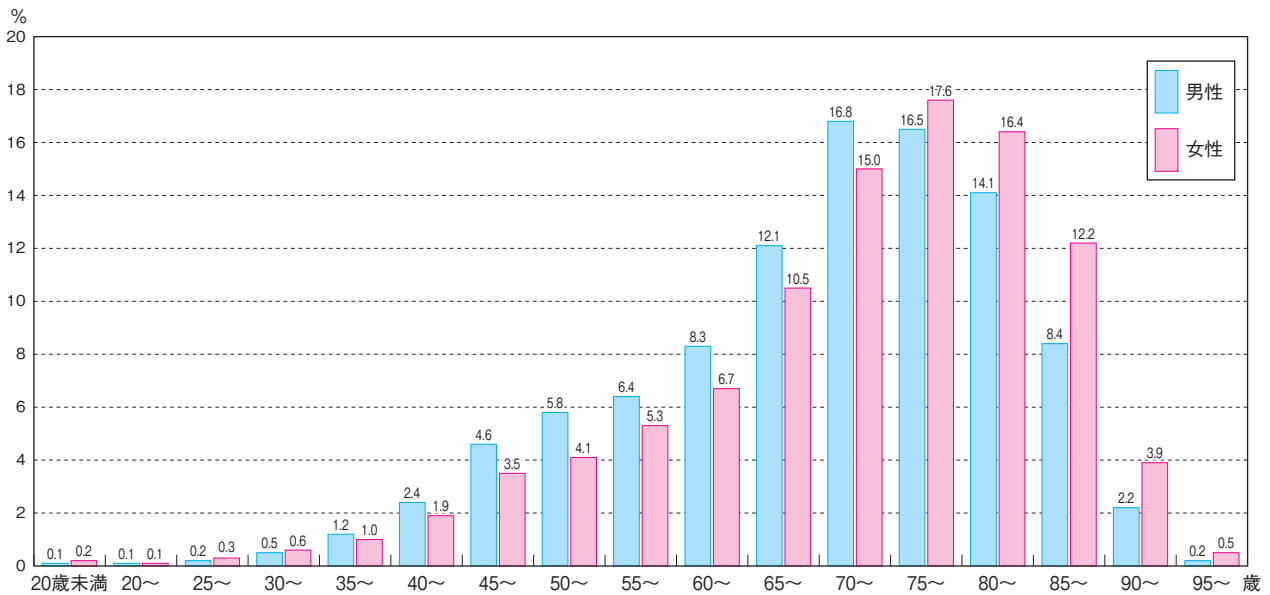


図14 導入患者 年齢と性別, 2019

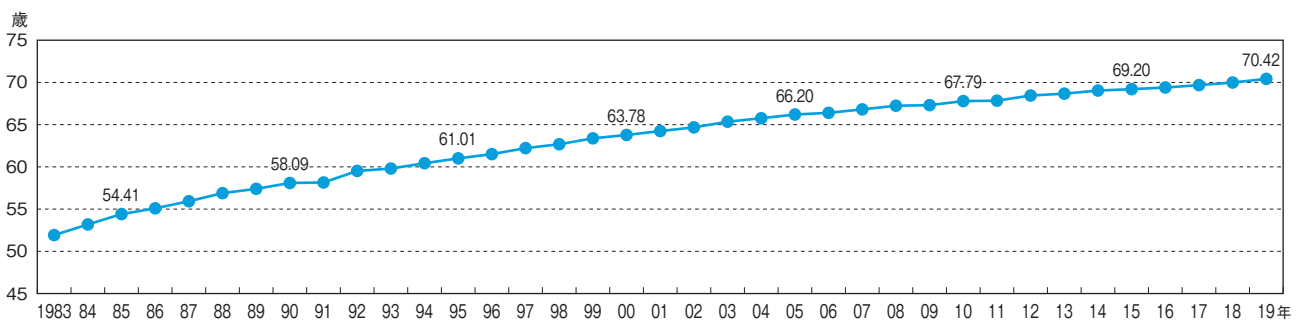


図15 導入患者 平均年齢の推移, 1983-2019



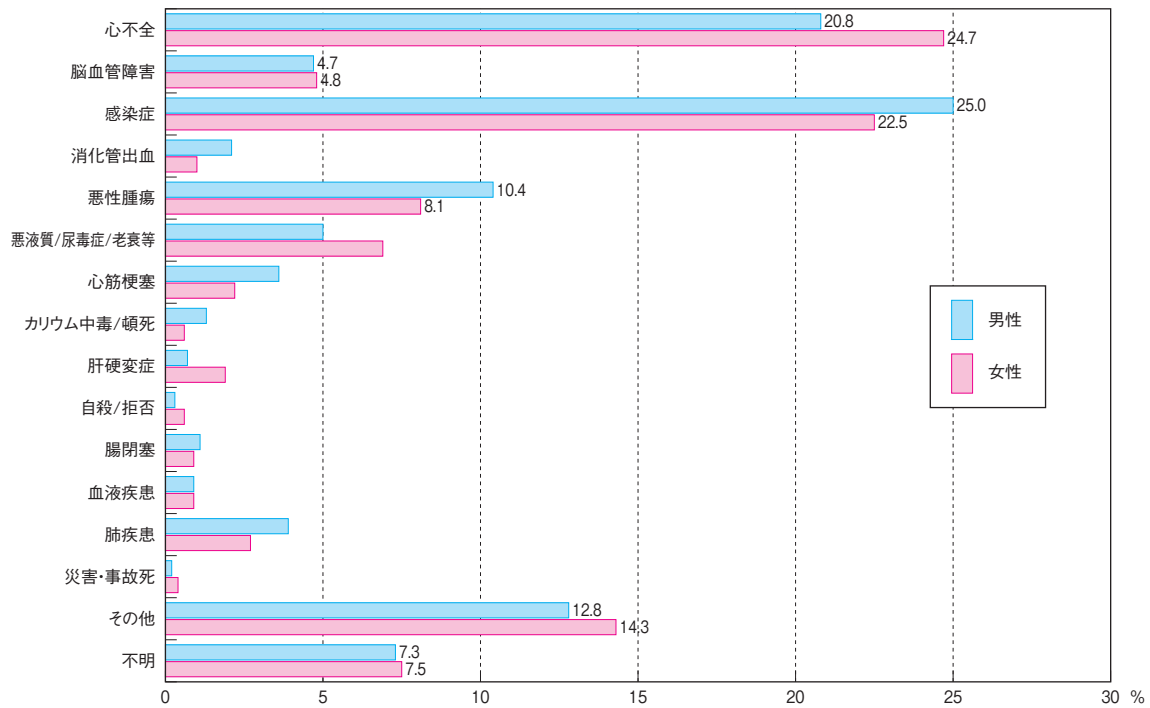


図 18 導入患者 死亡原因と性別, 2019

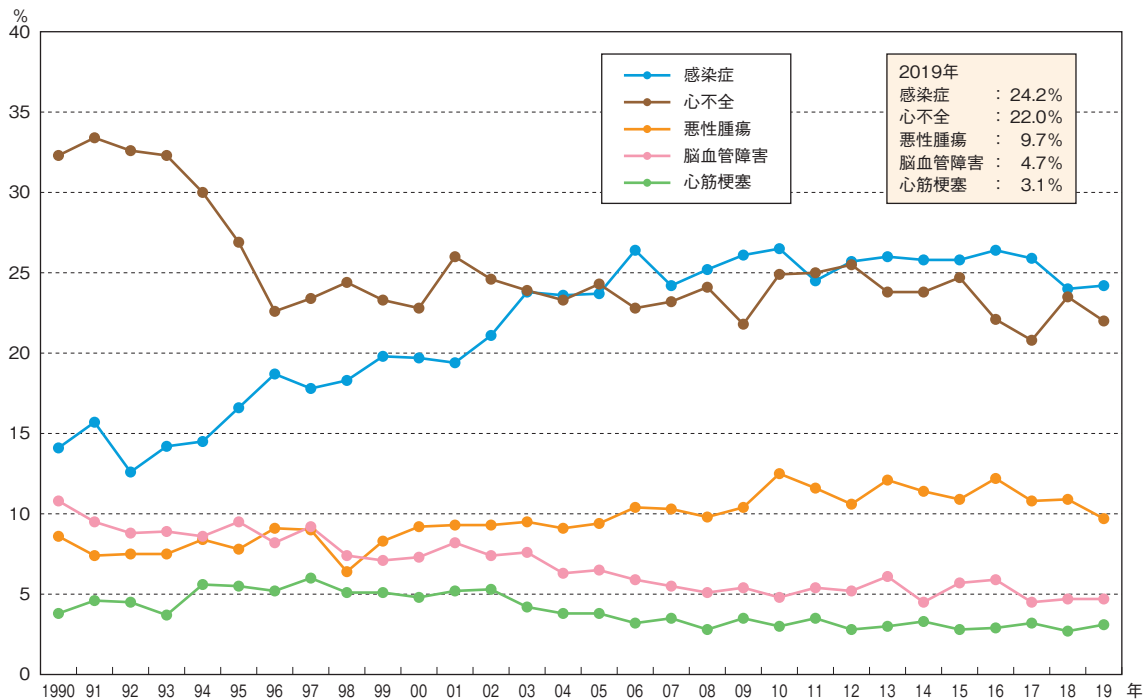


図 19 導入患者 死亡原因割合の推移, 1990-2019

## 2. 死亡原因

2019年導入患者の導入年内の死亡原因は、全体では感染症が24.2%と最も多く、次いで心不全が22.0%、悪性腫瘍が9.7%、悪液質/尿毒症/老衰等が5.6%、脳血管障害が4.7%、肺疾患が3.6%、心筋梗塞が3.1%であった。心血管死の合計は29.8%に漸減した（図18、補足表18）。透析導入年内の死亡原因の推移をみると、1990年代は心不全が最も多かったが、感染症が徐々に増加し、2006年頃から感染症が最も多い死因となった。2006年以降10%を超えて推移していた悪性腫瘍による死亡の割合は、本年度は久しぶりに10%を下回った。脳血管障害による死亡は、徐々に減少傾向を示している（図19、補足表19）。一方で悪液質/尿毒症/老衰等による死亡割合は漸増傾向である。